

財団法人 J K A

補助事業名 平成19年度 聴導犬普及等に係る施設の建設整備補助事業

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

長野県宮田村に位置する日本聴導犬協会は、「聴導犬」「介助犬」の「訓練事業と認定事業」を認可された厚生労働大臣指定法人です。国際的にも、日本で初めて国際認定を団体自体と訓練士に対して世界最大（103育成団体加盟）の補助犬育成団体の組織である「ADI（国際アシスタンスドッグ協会）から授与され、補助犬のクオリティに対して高い国際評価を受けました。しかし、民家（築50年以上）を2軒棟続きで借りての事業展開では、リフォームも高額な上に限界があります。車椅子使用者の受入には限界があり、希望者を寒冷な冬場には受けづらく、充実した福祉サービスが提供できないため、年間育成頭数は2-3頭と少数にとどります。身体障害者の福祉の向上を図るために、聴導犬、および介助犬普及のための施設を建築整備し、身体障害者のニーズに合う優秀な補助犬育成増加を図り、社会福祉の増進に寄与する。

(2) 実施内容等

社会福祉法人日本聴導犬協会として上記補助事業の目的達成のため、聴導犬、介助犬育成施設として、下記施設を建設整備する。

- ア、施設名：補助犬育成施設日本聴導犬協会
- イ、構造：木造2階建、1棟、延べ床面積：482.00㎡
- ウ、定員：10名
- エ、特殊付帯設備：暖冷房設備、暖房設備、エレベーター設備
- オ、エレベーター：1基
- カ、初度調弁

2. 予想される事業実施効果

新施設はハード面の充実だけでなく、補助犬育成に関するソフト面の新しい提案ができたのではないかと考えます。以下の5つの効果が予想されます。1：希望者の増加（福利厚生の実）－訓練環境の充実から聴導犬・介助犬希望者の増加が図られます。また、滞在訓練中の空間の広さおよび快適さ、清潔さなどによる身体的および精神衛生面での充足が提供できます。2：協会犬と希望者の訓練効率のアップ－訓練ホール（約37畳分）があることから雨天訓練が可能となったこと。また、訓練器具な

どの充実。そして、複数の希望者の滞在訓練が同時にできる施設整備により、これまで年間2-3頭であった聴導犬・介助犬育成に関して効率化が図れます。3：地域貢献の実現—これまでは、狭い民家だったことから、ボランティア活動や見学などについて制限を設けておりましたが、個人情報のある事務所の隔離などが図れたことから、多数の受け入れが可能となりました。4：スタッフの作業効率—狭い空間での活動から、計画的な空間を設けた事務およびボランティア活動室など、作業的な効率が図れます。5：希望者施設内感染の予防—現在、院・施設感染の危惧が高まっている中、通風、空調の完備および、床材や壁紙なども衛生面も考慮されています。土壌消毒には、バチルス菌の活用も行いました。スタッフの意識でも感染予防への効果が予想されます。6：協会内的には、スタッフへの職場環境が整備され気持ちのよりどころ強くなり、外部的には、支援者をはじめとする補助犬業界全体への安心感につながる事が予想されます。



SDの岡崎恭子設計監理士率いる、建築デザイナー長島隆一、伊藤武弘による設計





ガラスの階段がある訓練ホールは38畳＋カフェ17畳。候補犬のお気に入り



バリアフリー設備充実

エレベーター大好き